熊取町埋蔵文化財報告第16集

東円寺跡発掘調査概要・Ⅶ

－東円寺跡９０年－２区の調査－

１９９１年　３月

熊取町教育委員会

はしがき

東円寺跡は熊取町役場周辺に位置する遺跡で、平安末期に建立されたと伝わる寺院跡とそれを支えた経済基盤である生産集落の遺跡です。

近年開発の増加に伴って、遺跡内での発掘が行われる機会が多くなってきております。

今回も、記録保存を行う為に、開発申請者の方のご理解を得て、発掘調査を実施いたしました。

本書は平成2年に実施された分譲住宅の建築に伴う調査についてまとめて発刊したものでありますが、たとえわずかなりでも文化財保護に寄与できるものと確信しております。

文末となりましたが、現地での調査並びに本書の作成にご尽力いただいた方々、並びに関係各位に対し深く感謝の意を表します。

平成3年3月

熊取町教育委員会
教育長　山中長正

例　　言

1. 本書は熊取町教育委員会が受託事業として実施した株式会社太陽の分譲住宅建築に伴う発掘調査の概要報告書である。

2. 調査及び整理に要した費用は、すべて調査原因者である株式会社太陽の負担によるものである。

3. 調査は熊取町教育委員会発掘調査嘱託員井田匡を担当者として実施した。

4. 調査の実施と整理作業にあたっては池辺吉也、義本哲司、宅野京子の諸氏の参加を得た。また、株式会社太陽・竹口文化財土木工業所並びに関係各位より多大な協力を得た明記して感謝の意を表したい。

5. 本書中の標高は、東京湾平均海水面を基準とし、方位については、地図以外は磁北を示すものとした。

6. 本書の執筆・編集は井田がおこなった。

目　　次

第 1 章　調査の沿革 …… 1

第 1 節　調査に至る経過 …… 1

第 2 節　遺跡の位置と環境 …… 1

第 2 章　東円寺跡90年－ｔ区の概要 …… 2

表　目　次

表　1　遺物観察表 …… 4

挿　図　目　次

第 1 図　熊取町位置図 …… 1

第 2 図　調査区位置図 …… 2

第 3 図　遺物実測図 (1) …… 2

第 4 図　遺物実測図 (2) …… 3

写　真　図　版　目　次

図版第一　調査区遺構検出状況 (1)

図版第二　調査区遺構検出状況 (2)

東円寺跡発掘調査概要・Ⅶ

第1章　調査の沿革

第1節　調査に至る経過

大阪府泉南郡熊取町大字野田２３８５－１、４番地において、株式会社太陽が分譲住宅の建築を計画し、同社代表取締役常包安紀氏より、平成２年６月１３日付で文化庁長官宛の発掘届出書と熊取町教育委員会教育長宛の埋蔵文化財包蔵地の存在確認調査に伴う技師派遣依頼が提出された。

第１図　熊取町の位置

これを受けて熊取町教育委員会では、申請者と遺跡の取り扱いについて協議を実施し、平成２年６月１８日に試掘調査を実施したが、良好な遺物包含層を確認した。再度協議を実施し、遺跡の重要性に鑑み調査することで合意した。

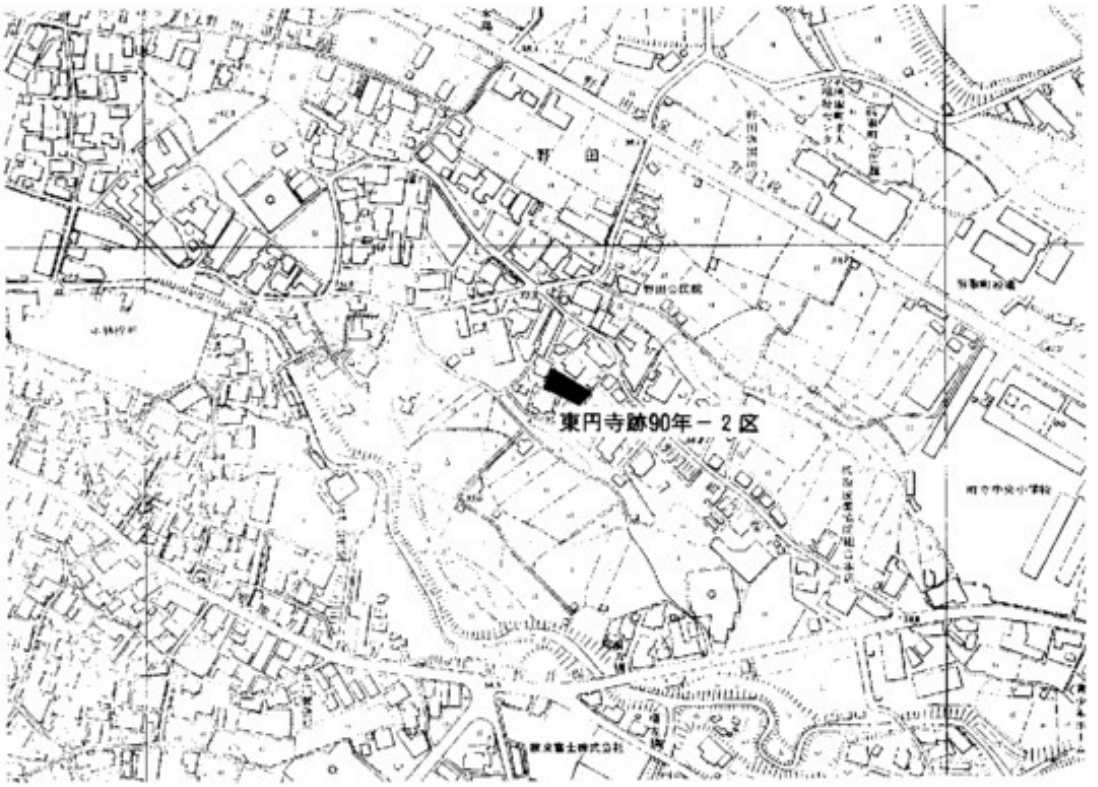
第2節　遺跡の位置と環境

今回の調査地は、東円寺跡の南側に位置しており、野田の集落の中で、地形的には丘陵の縁辺と中位段丘の接点である。標高はＴＰ＋３６ｍ前後に位置する。

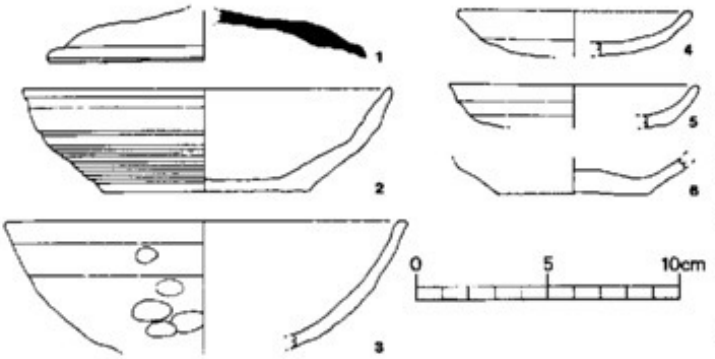
東円寺跡の南側を東から西に大井出川（住吉川）が流れているが、流域ではここ数年の間に開発の事前調査により遺跡が新規発見されている。現在南北３５０ｍ、東西７５０ｍに及ぶ範囲を東円寺跡と呼称しているが、調査が更に実施されて、資料が蓄積されるに従って、寺院のあった場所を東円寺跡とし、寺院と直接関係する範囲を東円寺遺跡としてそのほかの範囲は別途の遺跡とすることが望ましいと思われるが、それは今後の課題である。

第２章　　東円寺跡90年－２区の概要

調査を実施した地点は、現状は宅地で、周辺の地形は北側が高く、南側ではかなり急に標高を下げている。

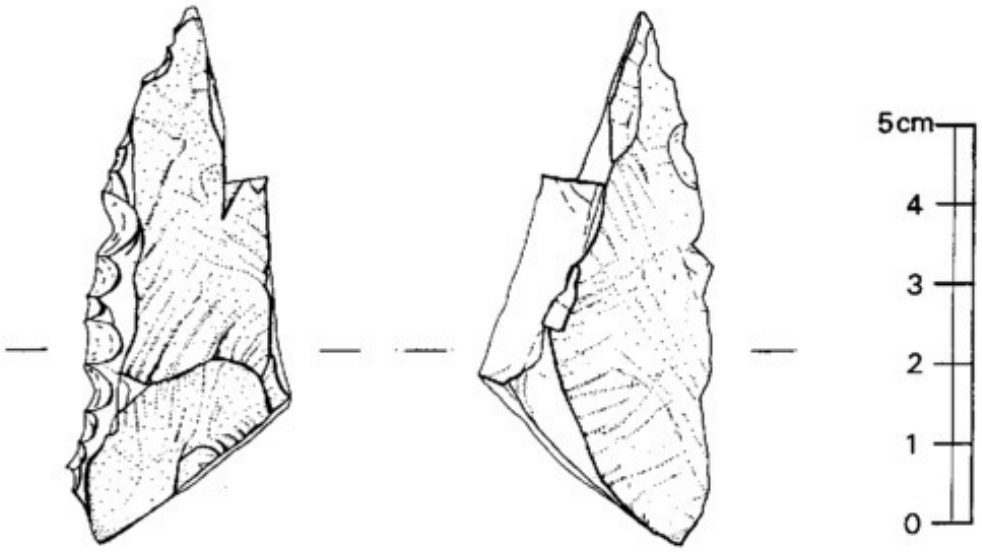


第２図　調査区位置図



第３図　東円寺跡90年－２区の出土遺物 (1)

検出した主な遺構は溝（ＳＤ－１）を一条検出した。ＳＤ－１は幅３０cm前後で、深さ２３cmの時期不明の溝である。遺構覆土は暗紫褐色粘質土である。遺物の出土量は少なく、通常の遺物収納コンテナ（容量２７．５ℓ）に半分程の量が出土しただけである。土器などの遺物はいずれも包含層からの出土であるが、溝の遺物としてサヌカイトの



第４図　東円寺跡90年－２区の出土遺物 (2)

未製品が出土している。図示し得た遺物は全部で７点ある。個々の遺物の詳細については、遺物の挿図及び観察表を参照願いたい。

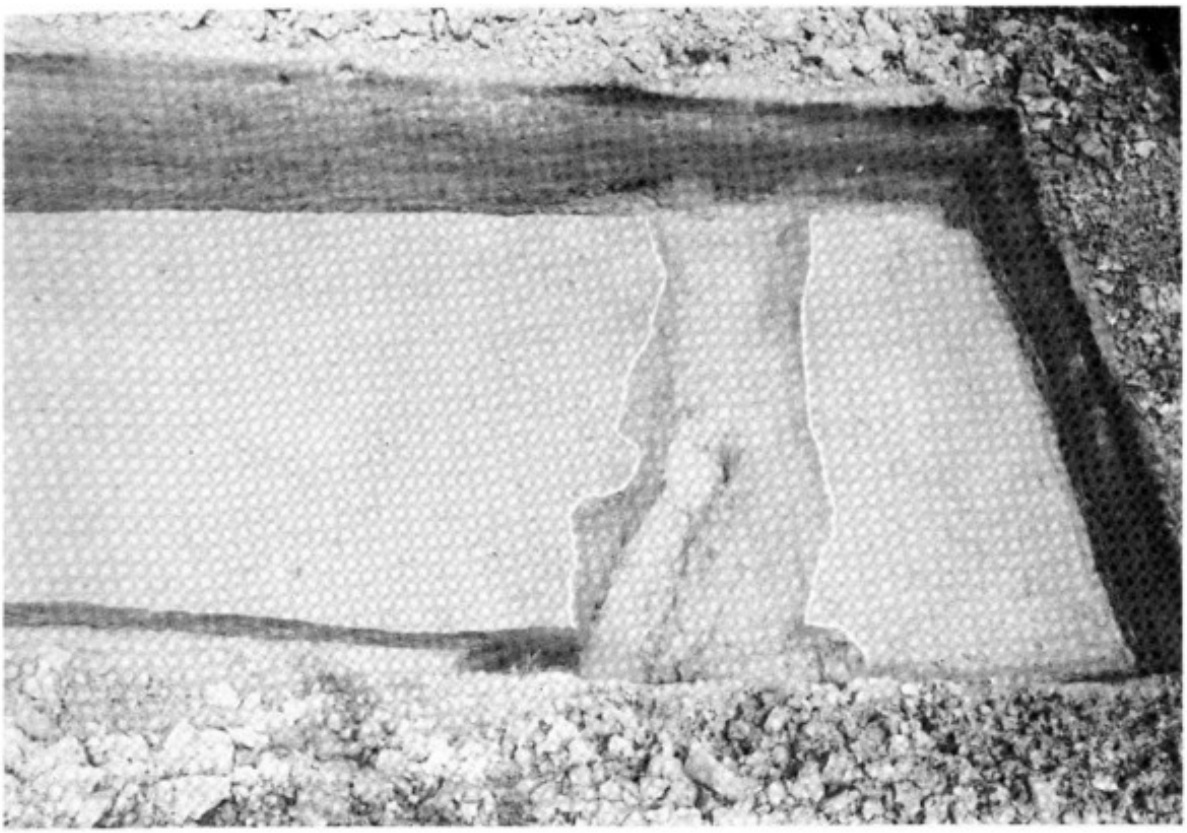
調査地周辺の下野田の地区では、過去に数回調査を実施しているが、状況が近似している。共通点についてあげてみると、「遺物包含層が良好に残っている。」、「弥生から古墳時代の遺物が出土遺物に数点混じる。」等であるが、これらの状況については、いずれなんらか形で解明しその責を果たすつもりである。

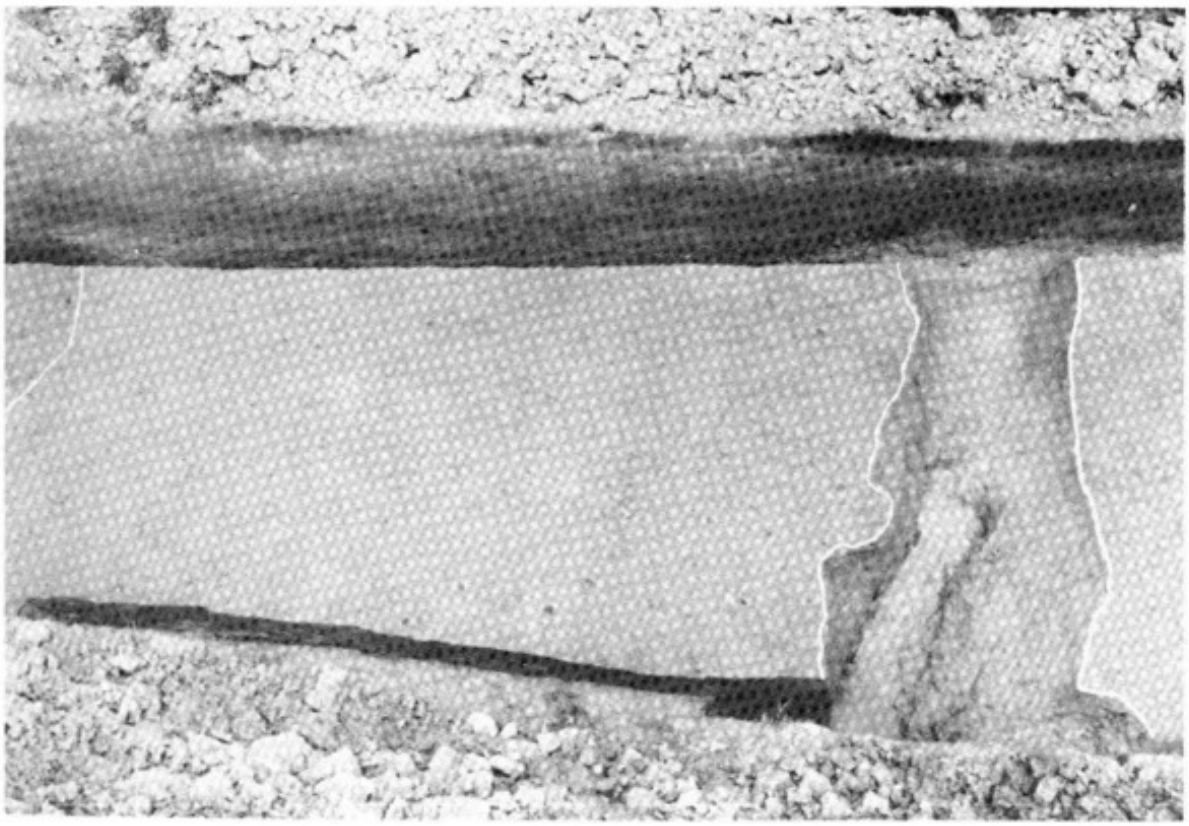
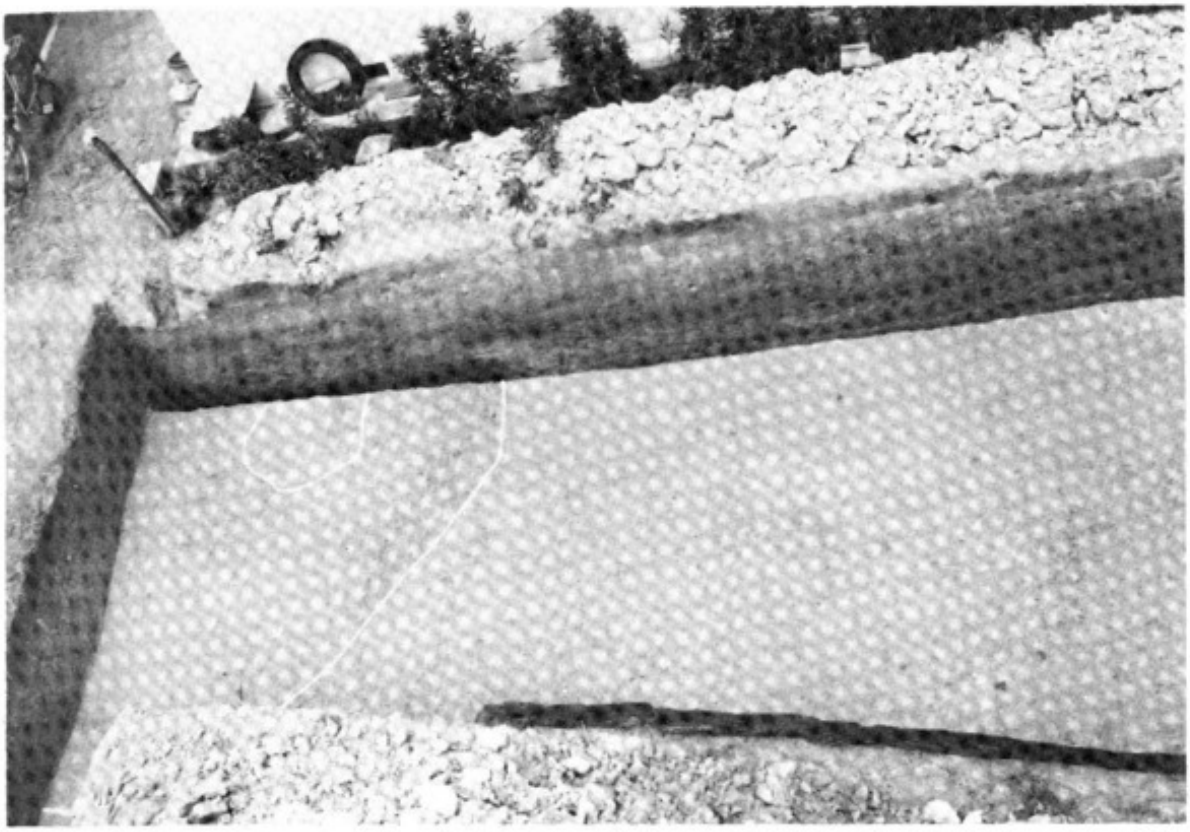
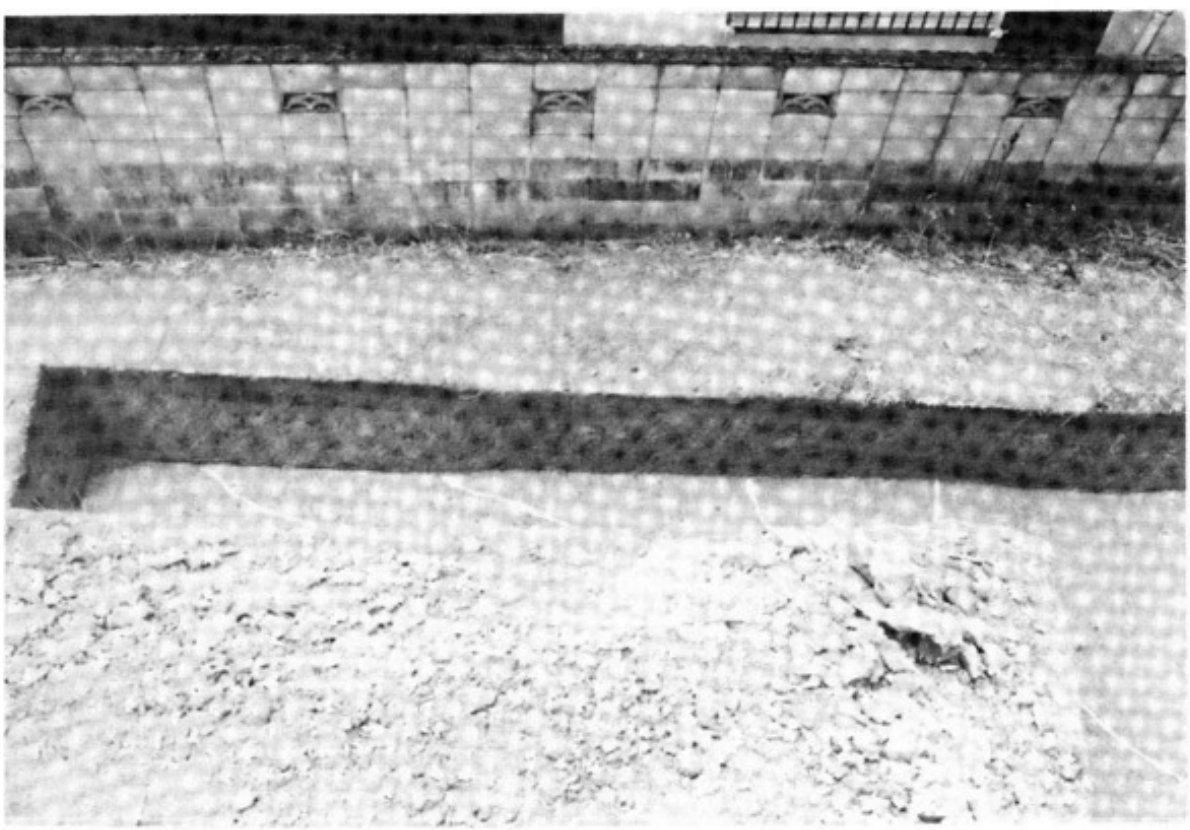
遺物観察表

器種	法量（cm）	図版番号	形態の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
須恵器 杯蓋	口径 12.2	第3図 1	・口縁は端部で下垂する。	・ロクロ調整	胎土－良好 色調－灰色 焼成－良好	・包含層出土
土師器 皿	口径 14.1 底部径 8.9	第3図 2	・体部から口縁にかけて逆の字状に内湾する。		胎土－良好 色調－橙黄色 焼成－良好	・包含層出土
瓦器 椀	口径 15.4	第3図 3	・口縁端部は丸く、口縁は外上方へのびる。	・体部はヨコナデ ・底部はユビオサエ	胎土－良好 色調－黒黄色 焼成－良好	・包含層出土
瓦器 小皿	口径 8.9	第3図 4	・口縁端部は丸くおさめられている。	・体部はヨコナデ	胎土－良好 色調－黒灰色 焼成－良好	・包含層出土
土師器 小皿	口径 9.5	第3図 5	・口縁端部は丸くおさめられている。	・体部はヨコナデ	胎土－良好 色調－黄橙色 焼成－良好	・包含層出土
土師器 皿	底部径 5.7	第3図 6	・糸切りによる平底を呈す。	・底部糸切り痕あり	色調－黄橙色	・包含層出土
サヌカイト	長軸 6.8 短軸 2.4	第4図 7		・端部調節痕あり	色調－灰色	・SD－1出土

図　　版

図版第一　調査区遺構検出状況





図版第二　調査区遺構検出状況